

1) - 9 防犯人間工学に基づく守りやすい戸建て住宅設計指針の基礎的研究

(研究期間 H21～H23)

【担当者】 樋野 公宏

本研究は、戸建て住宅における CPTED（防犯環境設計論）の考えに基づく具体的な指標づくりを目指すものである。CPTED の 4 つの基本原則（監視性の確保・領域性の強化・対象物の強化・接近の制御）に関して人間工学実験を実施し、理論で定性的に言われていることを定量的に把握し、実際の戸建て住宅の防犯に実践可能なデータを獲得した。

3 か年の研究期間を通じて、屋根等を足場にしたサッシからの侵入について被験者による人間工学実験を実施した。住宅性能表示制度では防犯対策が必要な窓について足場からの離隔距離に関する規定（鉛直方向 2m かつ水平方向 0.9m 未満）があるが、これを緩和できる可能性があると考え、その妥当性について検証した。検証の結果、給湯器貯湯タンク等の平坦な足場、勾配のある下屋から侵入する場合に規定を緩和できる可能性があることが明らかになった。実験結果は各年度の日本建築学会大会にて発表した（平成 24 年度は予定）。